

皆さんの声を町政に

まちづくり懇談会

榑原町長との「まちづくり懇談会」が、11月25・28・29日の3日間開かれました。町からの情報提供や町内会からの質問などにお答えし、町民の皆さんと懇談しました。



懇談会には述べ 65 人の町民の皆さんが参加しました。

まちづくり懇談会での内容の一部をご紹介します。

公営住宅

質疑 南部公民館向かいの公営住宅の建て替えの予定はあるのか。建て替えるとしたらいつ頃になるのか。

回答 町では公営住宅の長寿命化計画があり、計画的に古い住宅から建て替え整備を行っている。継立団地は平成33年に建て替えを予定している。場所や間取りは、これから南部地域の振興策を含めて地域の皆さんと協議していきながら決めていきたい。

特定健診

質疑 前立腺がん検診を特定健診に加えることはできないか。

回答 現状、すぐに前立腺がん検診を特定健診に入れることは難しい。前立腺がん検診は、オプションで行っており、他の検診でも現在オプションとなっているものが数多くあるので、どこをどのようにに設定するのはニーズと費用を踏まえて、町民の皆さんからご意見を聞き今後検討していきたい。

学童保育

質疑 学童の受け入れを早くしてほしい。

回答 継立地区のみならず、栗山地区も職業の多様化による実態がある。早速対応ができるか現状を調査し、保護者の方にもご理解をいただきたいながら、他の制度利用も含め検討していきたい。



各会場の参加人数

11月25日(金)	
南部公民館	16人
11月28日(月)	
カルチャープラザ「Eki」	35人
11月29日(火)	
農村環境改善センター	14人

コミュニティバス

質疑 コミュニティバスの休みの日がわからない。時間は書いてあるので工夫したほうが良い。

回答 12月1日から本格運行するコミュニティバスの時刻表に、土日運休の表示をしていきたい。

栗のブランド化

質疑 サミットのような、栗に関わる人たちが集まるイベントを開催してほしい。

回答 栗のブランド化は、平成22年に「北のくりやま栗づくり協議会」を立ち上げ、東山にある圃場で約700本の栗を育ててきた。昨年までは、岐阜県の恵那川上屋に栗山町産の栗を送って渋皮煮を作っていた販売したが、平成28年度、町内の農業者が渋皮煮と甘露煮を製品化し、ようやく栗山の栗を使った本格的なものができた。10月に行われたオーロラタウンでの催しに出品し、札幌では北キッチンなどで販売している。町内では、11月23日からまちの駅「栗夢プラザ」

で本格的な販売が行われた。栗の産地は全国にあり、いきなりサミットなどの事業展開ができるかはわからないが、検討していきたい。

姉妹都市交流

質疑 町民による姉妹都市の角田市との交流を、一回くらいしてほしい。

回答 姉妹都市締結後、子どもたちはもちろん、青年は毎年相互交流している。角田市からも福祉関係団体など相当来てもらった。本町の特産品を角田市の農業まつりで販売をしている。一般町民の交流機会がないので、5、10年に1回、相互交流できるように検討したい。

町道の植樹

質疑 町道栗山由仁線の歩道の道側に植樹しているのか。今までは植樹がなかったで道路が広く感じたが、今は道側の方に植樹しているの除雪がしづらくなっていると思う。

回答 植樹の施工は、道路構造令（道路、構造物、歩道の順）に基づいて工事し

ている。また、外側に植樹すると畑に葉っぱが落ち農家の方々に迷惑をかけることになるので、現在のような施工をしている。

ごみの分別

質疑 ごみの分別で、いろいろなものが出てきてどこに分別すればよいかわからない。できれば、平成23年に出されたごみ分別冊子の新しいものを出してほしい。

回答 平成23年に出したごみ分別冊子に載っていないものも出てきており、随時改訂し不足分は平成28年に増刷している。全戸に配布されていない状況にあり、検討させてほしい。

まちな政策

質疑 栗山町として人口を増やす施策は考えているのか。

回答 当然考えて、いろいろな手を打っている。町では移住に力を入れ、農業関係では角田にある元の公営住宅を生かしながら、新規就農者を多く受け入れている。現在、人口減を止めることが大変で、生まれてくる子ども



の数と亡くなられる方の差が5倍近くになっているので、このことを何とかしなければならぬ。移住や新規就農、企業誘致などで人口が増えれば良いと感じている。あの手この手で人口を増やす施策に取り組んでいることをご理解いただきたい。

※町ホームページ「行政・まちづくり」↓「協働のまちづくり」に全議事録と配布資料を掲載しています。

【問い合わせ】

町総務課
広報・防災・情報グループ
☎ 7501